

「次の人への心遣い」

雨の日に、学校訪問をすることがありました。校長室で学校の取組の説明を受けていました。

校長先生に「先ほど玄関を通ったとき、生徒の靴箱の靴が揃っているのを見ました。どのような指導をされているのですか。」と尋ねました。「教職員が共通理解して取り組んでいます。」の後、「まずは教えること、そしてやらせること、良くなった学級をほめること。」などを紹介されました。「やはり、ほめることが大切ですね。」と言うと「ほめられれば、やる気が出ますからね。」と言われました。

「でも、うちの学校には、もっとすごいことがあるんですよ、気がつきましたか？」と逆に尋ねられました。「えっ？ 何ですか？」すぐには思い浮かばず困っていると、こう言われました。「傘立てです。学級ごとに傘立てがあるのですが、傘がビシッと立っています。ぜひ、見てください。」そう言われ、実際に見に行くと確かに整然と立っています。無造作に突っ込まれ、半分開いたような傘は一本も見あたりません。「本当にそうですね、ビシッと立っていますね。」と言うと、「そうですね。靴箱と傘立ては違いますから。」と言われました。

校長先生によると、靴箱は個人スペース、傘立ては共用スペースだと教えるのだそうです。どちらも大切ですが、傘立ての指導で、マナーやルールを他の人への「心遣い」として教え、その意味を生徒が理解すれば、細かく言わなくても、生徒はきちんと応えて、水切りもするし、ネームバンドでしっかり留めるようになることでした。傘立ての使い方は、次に使う人への思いやりの心にかかわることなのだと気付きました。

外は雨でしたが、傘立ての姿から生徒たちの心遣いが伝わってきて、気持ちは晴れやかになりました。